

株式会社リソース

[中小企業部門]

組織データ	所在地	香川県高松市室町1907番地36Rビル2F		創立年	1982年	
	業種	サービス業(他に分類されないもの)	資本金	40百万円	売上高	1,024百万円(直近決算期)
	代表者	沖川 学	総従業員数	74名(直近決算期 嘱託・パート・アルバイト含む)		

事業概要

資源のリサイクル事業(選別～加工)を展開

自治体関係や一般企業から回収されたビン・缶・プラスチック・ペットボトル等のリサイクル事業を展開する。8年程前から、単に選別するだけではなく、加工まで行い、付加価値を高める方向に転換した。例えば、アルミ缶は、解体してアルミペレット・アルミブリケット等の再利用資源として加工し、「脱酸剤」として鉄鋼メーカー等へ出荷している。また、株主である四国コカ・コーラボトリングとのネットワークを生かし、自動販売機の解体処理、飲み残し飲料等の微生物による処理も手掛けている。

最大の特徴

障害者目線のストレスなく働ける環境づくり

障害者目線の作業環境を整備し、障害者を正社員として雇用している。また、作業量や解体台数等による賃金格差や目標設定はせず、ストレスなく働ける環境をつくることで、品質を担保している。今では、製造したリサイクル品について、顧客から不純物濃度の低いリサイクル資源として高い評価を獲得している。

バリューチェーンの拡大による付加価値の向上と、障害者目線の作業環境整備による会社全体の生産性向上を実現している。



ポイント

- ★作業量の達成率による賃金格差、解体台数の目標設定等はせず、**ストレスなく働ける環境を整備することで品質を担保**
- ★作業ラインの高さを調整する等、障がい者目線の作業環境を整備することで、**健常者の作業効率もUP**
- ★**障害者全員を正社員として雇用**し、サポート体制を完備。今では全社員の3割を占める
- ★「**残業はほぼナシ**」が、定着率の高さ、遠方からの就職希望者獲得につながっている

取組を始めた背景やプロセス

●支援学校の生徒・先生の熱意がきっかけ

10年程前、とある支援学校の先生がリソースに飛び込んできた。「自分の学校の生徒が、6年間毎朝通学時に御社の工場の前を通りながら、ここで働きたいと思ってきた。何とか就職させてあげてくれないか」。当時の社長は、その生徒・先生の熱意に感動し、すぐに受け入れることを決めた。

実際に雇用してみると仕事に取り組む姿勢は素晴らしく、一つのことに集中する力に長け、多少作業環境の整備をすれば十分に活躍できることを知った。これがきっかけで継続的に障害者を雇用し、現在は全体の3割を占める。

労働生産性の向上（付加価値向上と効率化）

●選別から加工まで手掛け、付加価値向上

資源の選別を行うだけでは事業として採算が厳しいと考え、8年程前から加工まで行い、付加価値を向上させる方向へ転換。例えばアルミ缶は、解体後、鉄鋼メーカーで「脱酸剤」として使われるアルミペレットやアルミブリケットに加工、出荷している。また、近年では飲み残り飲料等の処理も手掛け、バリューチェーンの川下へ積極的に展開している。

●ストレスなく働ける環境づくりで品質向上

全社員の3割を障害者が占めるリソーシズでは、目標が障害者にとってストレスになると考え、作業量の達成率による賃金格差や、自販機解体目標数の設定を行っていない。こうした独自のマネジメント方法によって、雑な処理や低品質になることを避け、1台ずつしっかりと解体・資源分別することで顧客満足度を高めている。

●海外展開や新規事業開発に積極的に取組

創業当時のリソーシズは、資源の「選別・出荷」が主な事業ドメインであった。しかし、徐々に「加工」まで事業領域を拡大し、付加価値を高めてきた。また、近年では、東南アジアを主とするJICAなどを活用した海外展開の模索、経済産業省の補助金を活用した新商品の開発等、さらなる成長に向けた取組を積極的に行っている。

雇用管理改善（働きやすい・働きがいのある職場づくり）

●障害者を正社員として処遇・戦力化

障害者を全員正社員（一般就労）で雇用。今や全社員の3割を占めるまでになった。ここで注目すべきは、全員が「戦力」として見なされている点である。リソーシズでは、こうした人材が一戦力として活躍できるよう、作業台の高さを調整したり、障害者相談員を設けたり、必要な人に対しては通勤時のバスによる送迎を行う等、労働環境の整備を進めている。

●残業はほぼ「0」、遠方からも就職希望者が

多少の波はあるものの、毎日大体17時くらいには退社している。「プライベートを充実させたい」と県外からの就職志願者も多く、中には1時間以上かけて通勤する人もいる。障害者の定着率も高く、これまで採用した24人のうち、21人が今でも働いている。この障害者雇用のきっかけを作った支援学校の卒業生も、勤続年数12年、現在も活躍している。

労働生産性と雇用管理改善の好循環および組織への好影響、成果

●働きやすいから、品質も担保&新商品も開発

同社の魅力は何とんでも「働きやすさ」にある。残業はほぼなく、数値目標をつくるのではなく全員が安心して働ける職場をつくることで、定着率を高め、雑な仕事や品質低下を防ぎ、これが最終的に顧客満足度につながっている。そして、そこで生まれた収益によって、例えば新たな商品の試作品を作る等のチャレンジを行い、新たな事業展開を模索している。

今後の展開について

●エリア展開、新たな付加価値創造へ

四国コカ・コーラボトリングの親会社となったコカ・コーラウエスト社との関係性を軸に、九州をはじめとする本州全体への事業拡大を模索する。そしてその先には、廃棄物処理の課題を抱える東南アジア等へのエリア拡大をも見据えている。また、新しい脱酸剤で鉄入りブリケットの試作を進める等、新たな付加価値創造に向けた取組を拡大していく予定である。